

つながる・ひろがる交流会～猪子石学区～

日時：平成27年 10月6日(火)

16:00～17:30

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「めいとう総合見守り支援事業」について

1 概要

名古屋市では、災害時に一人で避難できない人々を、地域住民相互で安否確認・避難誘導する「助け合いの仕組みづくり」を平成18年から進めてきたところであるが、実施している学区や自治会などの拡大が進んでいない。

そこで、名東区では独自に、日ごろからの地域のつながりが大切であり、新しい実践的な仕掛けが必要であるという発想で、「めいとう総合見守り支援事業」を創設した。



2 取り組みの内容

平成25年	4月	・学区連絡協議会で「助け合いの仕組みづくり」について 諮り、賛同を得る
平成26年	1月31日	・学区と区役所の協定締結
	2月7日～ 3月10日	・同意書の発送
	3月21日	・マップづくり (自治会ごと要支援者178人分のマップを作成)
	7月13日	・救援計画策定 (要支援者を安否確認・避難誘導する仕組みを確認)
	9月11日	・同意書・名簿等受け取り
平成27年	9月21日	・救援訓練実施 (支援にかかる実際の動きを確認)
	7月26日	・名簿等持ち寄り訓練
	10月4日	・救援訓練実施

3 成果及び課題

- ・緻密なマップづくりから区政協力委員・民生児童委員・消防団が三位一体となり連帯の絆がより強くなった。
- ・自治会未加入者だった要支援者から、加入の申し込みがあるなど、親近感が生まれた。
- ・国道302号線が遮断された場合、西側住民をどのように猪子石小学校へ避難させるかが課題。

4 意見交換の主なやりとり

(質問1)

災害の経験がなく、実践的な避難訓練を実施するのが困難なのが現状だが、何か工夫等はされていますか。

→ (回答)

昔はどこに池があったのか等を考慮して避難場所や避難経路を考えています。また、専門講師や小学校の先生まで含めて検討しており、子どもへしっかり教育していくことも必要かと考えます。

(質問2)

私たちの学区では防災訓練の際に札をだしてもらっているようにしていますが、個人情報の問題を考えると、他にいい方法があるならお伺いしたい。

→ (回答)

要支援者の安否確認札ですが、区役所で作成してもらった大きめの札を使用して、要支援者にドアノブ等にかけてもらいました。札の取り忘れがないように、口頭で「取り外してください。」と伝えるだけでなく、協力いただいたお礼のお土産を渡して呼びかけるように工夫しました。

(質問3)

訓練の際に、不在であるということはどのように確認しましたか？

→ (回答)

これはご近所に確認するしかないと思います。大体の場合、隣に聞くと旅行に出かけている等を教えていただけるので、それを信用するしかないかと。

(意見1) 〈名東消防署長〉

実際に被災され避難所に収容できるのは住民の1割だといわれています。大多数は在宅避難という形になるかと思いますので、災害時に情報提供する場所、助けを求める場所を訓練を通して自分の目で確認していただく、体験していただくことが必要だと思います。

(意見2) 〈社会福祉協議会事務局長〉

めいとう総合見守り支援事業ですが、政令指定都市の区が取り組むというのは全国的にも例のない事業です。災害という切り口の中で、日頃の地域のつながりをもう一度考えるきっかけになっていると考えています。救援訓練では、訓練の場そのものが地域の方が集まり、つながる場になっていると訓練に参加して感じました。

(意見3) 〈名東区総務課長〉

この事業は猪子石学区さんの並々ならぬご協力があり実現できたものでして、それがあったからこそ名東区は昨年度までに9学区、今年度5学区取り組みを進めることができました。課題も多い状況ですが、2年目となる本年度も名簿の更新や自治会長の交代に伴う意識の再共有化などメンテナンスの部分も取り組んでいただいております。これからも皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

（意見4）〈学区〉

隣どうしのつながりが希薄になってきている現在、災害のときだけが問題なのではなく、日頃からどのようにつながるかが課題だと思いました。

6 まとめ

（猪子石学区連絡協議会会長）

各自治会で焦ることなくできることから地道にやれることをやっていく積み重ねが後で役に立つと思います。個人的には子どもたちに教えていくことがいいと思います。いま12歳の子どもでも6年後には選挙権があります。学区でも民生・子ども会・体育委員会などすべての方の顔がわかる雰囲気づくりをやっていこうと思います。学区の訓練では猪子石が先頭をきっている状況にあり、学区全体の避難マップ作りのレクチャーも受けていますが、色々な方が参加していただけるようにしたいと思っています。

（名東区長）

今日お話をお伺いしまして、皆さまが本当に地道に活動されていらっしゃる事がわかりました。他の学区の皆さまにとってはある意味プレッシャーかもしれませんが、学区の特徴もあるかと思しますので、必ずこれが正解だというものではなく、それぞれの学区のバリエーションが出来上がってくるのかと思います。訓練をしたことで気づくことがあり、次のステップへすすんでいくというのが「生きた訓練」だと思います。私たちも地域の皆さまから学ばせていただき、行政が至らない点もございますが皆さまとともに、安心・安全な名東区をつくるために努力してまいりますので、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い致します。

救援訓練の様子



つながる・ひろがる交流会の様子

